

日本史 B (3 年生)

1. 学習の到達目標

- ①我が国の歴史に対する関心・課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。
- ②歴史的事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ判断して、過程や結果を表現することができる
- ③遺跡・遺物や文字史料などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、効果的に活用することができる。
- ④近世から近現代についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて理解することができる。

2. 使用教科書および副教材

教科書：詳説日本史B 改訂版 (山川出版社)

副教材：最新日本史図表 (第一学習社) ・日本史用語集 (山川出版社) ・日本史総合テスト (山川出版社)

3. 指導計画

学期	単元/学習のねらい	学習事項	
前期前半	4月	・武断政治から文治政治へと転換について、その方策や影響について段階をふんで理解する。 ・文化の担い手の変化など、江戸時代中期の特徴についておさえることができる。	・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化 ・幕政の改革
	5月	・改革が必要となる過程と改革内容、それが庶民を向いたものでなく、庶民の不満が蓄積されていくことを理解する。 ・幕政の改革の行き詰まりや、雄藩の登場などを学習することによって、幕末へ向けての胎動を感じる。	・宝暦・天明期の文化 ・幕府の衰退と近代への道 ・化政文化
	6月	(6月中旬 前期中間考査)	・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争
前期後半	7月	・諸外国の圧力や幕藩体制に不満を持つ人々によって幕府が崩壊し、中央集権体制に移行していく過程を理解する。 ・立憲政治成立から欧米列強と肩を並べるくらいまで急速に成長した過程とその弊害を理解する。	
	8月	・政治問題だけでなく、経済面での発展を世界との比較を意識して学習する。	・日露戦争と国際関係 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達
	9月	(9月下旬 前期期末考査) ・第一次世界大戦、国内経済の発展とその後の恐慌、政党政治の成立と崩壊の過程、市民文化の形成について理解する。 ・国内政治・経済の閉塞状態からアジアに進出し、十五年戦争に発展した過程について理解する。	・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代
後期前半	10月	・日本だけでなく、列強の利害対立について理解を深め、勢力図を描くことができる。	・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和
	11月	(11月下旬 後期中間考査) ・冷戦期の構図について把握し、日本が直面した課題について考察することができる。	
	12月	・経済発展の背景について段階をふんで理解することができる。 ・世界情勢と絡めて説明することができる。 ・現代日本の課題だけでなく、地球規模で直面している課題に向き合う姿勢が備わっている。 ・センター試験対策	・55年体制 ・経済復興から高度成長へ ・経済大国への道 ・冷戦終結と日本社会の動揺 ・問題演習
後期後半	1月	・個別試験対策	・問題演習
	2月		
	3月		

4. 評価規準と方法

【評価規準】

- ・我が国の歴史に対する関心・課題意識を高め、意欲的に追究している。
- ・歴史的事象について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を表現している。
- ・遺跡・遺物や文字史料などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、効果的に活用している。
- ・近世から近現代についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて理解し、その知識を身につけている。

【評価方法】

定期考査、提出課題および提出状況、授業態度・姿勢